



週間情報



No.2645

発行日 平成26年11月18日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 電話 03(3234)1321

両会の動き

◆ 平成26年度全国消防長会役員会の審議結果に基づく要望の実施

全国消防長会

平成26年10月30日(木)に大阪府堺市において開催された役員会の審議結果に基づき「焼肉店の出火防止対策に関する要望について」を、11月10日(月)に一般財団法人日本ガス機器検査協会において、和田予防委員会委員長(千葉市消防局長)及び大野事務総長が木村同理事長に対して行いました。

また、「消防関係予算の所要額確保に関する要望」を、11月12日(水)に総務省において、大江会長及び岡田財政委員会委員長(神戸市消防局長)が高市総務大臣等に対して行いました。

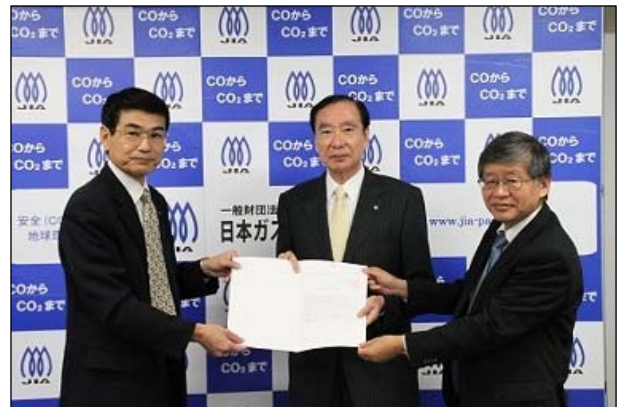
実施当日は、あかま政務官、大石事務次官、坂本消防庁長官の3名に直接お会いし、要望書を手渡しました。

【焼肉店の出火防止対策に関する要望について】

近年、全国の各都市で焼肉店での火災が発生しており、その原因のほとんどは、グリス除去装置、火炎伝送防止装置及び排気ダクト(以下「排気ダクト等」という。)の清掃が適切に行われていないなど維持管理の不適によるものです。

また、排気ダクト等の業務用焼肉等用ガス機器の設置方法等を定める貴協会が発刊する「業務用ガス機器の設置基準及び実務指針」(以下「実務指針」という。)によりますと、「ダクトの出火および延焼を防止するため維持管理が容易で、油脂の付着をできる限り抑えるとともに油脂の滴下を防止した気密性を保持した構造とし、点検・清掃に必要な点検口を設けること」とされていますが、各消防本部が行う立入検査時等においては、排気ダクト等には点検・清掃のための点検口等がないものや、点検口が少なく人の手が届かない箇所があるなど、点検や清掃がし難い構造のものが散見される状況です。

つきましては、焼肉店での類似火災を防止するため、排気ダクト等に係る点検口の大きさや取り付け位置の設定及び点検・清掃の要領等について全国統一した基準を、実務指針の中に明確に定めるよう要望いたします。



【日本ガス機器検査協会木村理事長に対する要望】

【消防関係予算の所要額確保に関する要望】

東日本大震災の発生以来、防災に対する国民の関心はますます高まっており、将来発生が危惧されている南海トラフ巨大地震や首都直下地震等に対応した広域応援体制や消防防災体制の強化が、国及び地方に強く求められているところである。

特に今年度は、国内各地で記録的な豪雨をもたらした「平成26年8月豪雨」により、広島市で大規模な土砂災害が発生し74名の死者が出たほか、京都府福知山市や兵庫県丹波市などでも甚大な風水害被害が発生した。さらに9月には長野県、岐阜県にまたがる御嶽山の噴火災害でも多数の犠牲者が出たことなどから、国民の「安心・安全」に対するニーズはさらに高まってきており、自治体消防の充実強化はもとより緊急消防援助隊制度など、広域応援体制の強化が喫緊の課題となっている。

国民が求める「安心・安全」な生活を実現させるためには、複雑化・高度化する災害に自治体消防が対応していくための経費が必要となるほか、緊急消防援助隊の増隊や、その円滑な活動に

必要な防災インフラの整備などにかかる経費の確保も必須であり、現行の財政措置の継続はもとより、一層の財政支援が必要不可欠である。

現下の厳しい財政環境の中、このような大規模災害対策のためにも自治体消防の充実強化を図り、国民から消防に寄せられる期待に的確に対応できるよう、特に次の事項の実現について強く要望する。

1 予算概算要求額の満額確保について

(1) 緊急消防援助隊、常備消防力の充実強化について

緊急消防援助隊の大幅増隊に向けて必要な車両を整備するための緊急消防援助隊設備整備費補助金及び常備消防力の充実強化を図るための消防防災施設整備費補助金等の概算要求額 94.8 億円を満額確保すること。

(2) 被災地における消防防災体制の充実強化について

東日本大震災により被害を受けた消防防災施設・設備の早期復旧を支援するほか、避難指示区域における大規模林野火災等への対応にかかる費用の概算要求額 34.1 億円（復興特別会計）を満額確保すること。

(3) 消防団を中核とした地域防災力の充実強化について

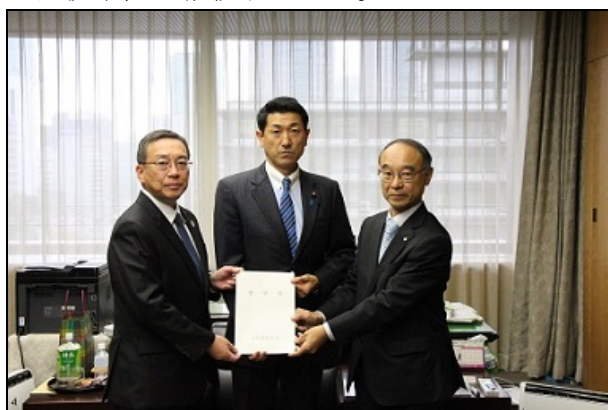
消防団員の災害対応能力の更なる向上を図り、地域防災力を一層強化させるため、消防団への若者・女性等の加入促進や、装備・訓練の充実強化などに必要となる費用の概算要求額 15.2 億円を満額確保すること。

(4) その他の消防活動に必要な経費について

上記(1)～(3)のほか、ICT・G空間による地方公共団体の防災・危機管理体制の高度化や、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会等に向けた大都市等の安全・安心対策などに必要な費用等、消防庁の概算要求額を満額確保すること。

2 地方交付税の所要額の確保について

消防機関が、消防活動を行う上で必要な財源となる地方交付税の所要額を確保すること。また、多額の整備費用がかかる消防救急無線のデジタル化事業等に支障が生じないように、緊急防災減災事業債、防災対策事業債及び施設整備事業債（一般財源化分）の元利償還金に対する交付税措置を継続すること。



【あかま政務官に対する要望】



【あかま政務官に対する説明】



【大石事務次官に対する要望】



【坂本消防庁長官に対する要望】

◆ 第20回全国消防長会総務委員会の開催

全国消防長会総務委員会

平成26年11月11日(火)、京都市中京区(京都ホテルオークラ)において、第20回全国消防長会総務委員会を開催しました。

会議における議題等は次のとおりです。

【議題審議】

- 1 消防組織における女性消防吏員の登用等について
- 2 次期開催地について

【情報交換】

再任用制度の運用状況について



【第20回全国消防長会総務委員会の様子】

◆ 平成26年度全国消防長会技術委員会第2回常任委員会の開催

全国消防長会技術委員会

平成26年11月13日(木)、青森県五所川原市(五所川原地区消防事務組合消防本部)において、平成26年度全国消防長会技術委員会第2回常任委員会を開催しました。

会議における報告事項、議案審議等については、次のとおりです。

【報告事項】

- 1 不用となった消防車両の処分方法について
- 2 ISO/TC94/SC14国際会議の結果について

【議案審議】

- 1 グループ討議の導入について
- 2 平成27年度全国消防長会技術委員会第2回常任委員会の開催地等について
- 3 第94回全国消防長会技術委員会の開催地について
- 4 第95回全国消防長会技術委員会の開催支部について

【情報交換】

はしご車の隊員養成基準について

【情報提供】

- 1 マグネシウム合金取扱工場の火災に係る対策について
- 2 最近の消防の動き



【全国消防長会技術委員会第2回常任委員会の様子】

行事

◆ 結の故郷発祥祭 大野市消防団設立60周年記念大会を実施

大野市消防本部（福井）

大野市消防本部では、平成26年10月12日（日）、越前おおの結ステーション及び学びの里めいりんにおいて、結の故郷発祥祭 大野市消防団設立60周年記念大会を実施しました。

「～たすけ愛・ささえ愛・きづき愛 とともに地域を守る消防団～」をスローガンに掲げ、大野市消防団設立60周年の節目の年に記念大会を実施することで、市民に広くアピールするとともに、消防団発展の道のりを振り返り消防団がより一層強い団結のもと、地域の安全・安心の充実強化を図ることを目的としました。

この大会では、他市町消防本部・団の協力をいただき、総勢約600名が参加し、ラップ隊による演奏、古式消防隊（腕用ポンプ）の披露、はしご鳶隊の披露、音楽隊によるドリル演奏、一斉放水、分列行進、記念式典等を行いました。



【一斉放水の様子】

◆ 「消防フェスティバル2014 in ひらつか」を開催

平塚市消防本部（神奈川）

平塚市消防本部では、平成26年10月18日（土）、平塚市総合公園において「消防フェスティバル2014 in ひらつか」を開催しました。

このイベントは、市民の安心・安全の更なる推進のため、消防車、はしご車及び救急車等を活用し、消防の仕事を市民に体験していただくことで、消防活動に対する理解と防火・防災意識の向上を図ることを目的としたものです。

当日は天候に恵まれ、多くの親子連れの来場者があり、はしご車の搭乗体験、消防車の乗車体験やちびっこレンジャーに長い列ができ、新しく配備になった災害活動支援車、津波・大規模風水害対策車及び小型水陸両用バギーの展示や少年消防クラブ員による火災予防演技も大盛況でした。



【車両展示の様子】

◆ ご当地グルメまちおこしメンバーを一日消防署長に任命

十和田地域広域事務組合消防本部（青森）

十和田地域広域事務組合消防本部十和田消防署では、秋の火災予防運動期間中である平成26年10月23日（木）、ご当地グルメでまちおこしを行っている「十和田バラ焼きゼミナール」の舌校長こと畑中宏之さんを一日消防署長に任命して火災予防運動を行いました。

同署の管内では、平成27年度にB-1グランプリが地元開催される予定であり、また、10月18・19日のB-1グランプリ in 郡山において「十和田バラ焼きゼミナール」がゴールドグランプリを受賞したことにより、地域住民から同メンバーの活動が注目を浴びています。この同メンバーによる一日消防署長は、新聞やタウン誌などに取り上げられ、これから火災が多発する時期にむけて有効な広報となりました。



【一日消防署長による通常点検】

◆ 「第3回愛知県消防連合フェア」を開催

豊橋市消防本部（愛知）

豊橋市消防本部では、平成26年10月25日（土）愛知県豊橋市において「第3回愛知県消防連合フェア」を開催しました。

当フェアは、5年毎に開催され愛知県内の消防本部や消防団、婦人防火クラブ、少年消防クラブをはじめとする各団体が集い、活動報告や消防関係者表彰などを行い相互連携の強化や活動に対する理解を深めました。

また、屋外会場では当市の特色を生かした多くのイベントが開催されました。当市の産業の特色を生かした三河港モーターショーや、当市職員が東北復興のため派遣している宮城県石巻市、同県南三陸町、福島県いわき市からの特産品を東北幸福市で販売し、東北の復興を応援しました。屋外ステージでは、地元の小学生や各種団体がパフォーマンスを繰り広げフェア全体を盛り上げました。

会場には多くの家族連れを含む約1万人が訪れ、消防職員との触れ合いや御嶽山噴火災害に派遣された緊急援助隊による報告など、火災予防や防災対策に関することについて学べ、来場者が消防について身近に感じられる有意義なフェアとなりました。



【はしご車展示の様子】

◆ 住民参加の合同消防訓練を実施**志太広域事務組合志太消防本部（静岡）**

志太広域事務組合志太消防本部では、平成26年10月18日（土）、藤枝駅前にある高層タワーマンション「マックス・ザ・タワー藤枝」において住民参加の合同消防訓練を実施しました。

「建物11階から出火し、上階のベランダに延焼拡大している」との想定で、当消防本部の指揮隊、特別救助隊、はしご隊など33名と自衛消防組織及び住民約100名が参加して行われた訓練は、住民の避難誘導を実施するとともにベランダに取り残された要救助者のはしご車による救助、各階に設置されている連結送水管を使用した消火活動及び延焼防止を実施しました。また、住民による避難はしごの使用の確認や起震車の体験も行いました。

今回の訓練は、住民が参加しての初めての合同訓練でしたが、防災意識が非常に高く、大変有意義な訓練になりました。今後も救命講習など、様々な形で住民との連携を強化し、更なる防災意識の向上に繋げていきます。



【避難はしごを降りる住民の様子】

◆ 多数傷病者対応訓練を実施**稲敷地方広域市町村圏事務組合消防本部（茨城）**

稲敷地方広域市町村圏事務組合消防本部では、平成26年10月20日（月）、21日（火）の2日間、多数傷病者対応訓練を実施しました。

訓練は机上シミュレーションとし、参加者は各所属で事前に座学講習を受講して訓練に臨みました。指揮隊員、中隊長、小隊長、救助隊長、救急隊長、指令課員の6名を1チームとして、4チームで熱い討論を展開しました。指導者は、MC L S コース（Mass Casualty Life Support「多数傷病者への対応標準化トレーニングコース」）修了者と、同インストラクターがあたり、チーム毎の討論の後、全体で発表会を行いました。最先着隊の役割・災害現場のマネジメント等、様々な意見が飛び交い活発な議論が展開されました。

終了後の参加者からは「部隊で意識の共有ができた。また是非行いたい。」などの意見が多く寄せられました。



【全体発表会の様子】

◆ 列車事故対応合同訓練を実施

福山地区消防組合消防局（広島）

福山地区消防組合消防局府中消防署では、平成26年10月23日（木）、JR府中駅構内において、府中警察署、JR西日本岡山支社の3機関が参加し、合同で列車事故対応訓練を実施しました。

訓練は、乗客約30人を乗せた実際の列車を使用し、踏切内に進入した乗用車と衝突し多数の負傷者が発生したとの想定で、関係機関約100人が救出・救護訓練を行いました。JR職員からの状況聴取後、救急救命士が乗客に対してのトリアージを実施、消防隊員と連携して応急手当を施した後、各機関が協力して迅速・安全に列車外へ救出し、トリアージシートへ負傷者を搬送しました。

訓練後に各機関で率直な意見交換を行い、鉄道事故発生時の対応について相互理解を深めることができ、連携が強化されました。



【列車事故対応合同訓練を実施】

◆ 平成26年度大阪国際空港航空機事故対策総合訓練に参加

豊中市消防本部（大阪）

豊中市消防本部では、平成26年10月23日（木）、大阪国際空港において行われた平成26年度大阪国際空港航空機事故対策総合訓練に参加しました。

この訓練は、「大阪国際空港緊急計画」に基づいて新関西国際空港株式会社の主催で行われ、「大阪国際空港緊急計画連絡協議会」を構成する空港周辺市の消防や警察、医療機関、空港内の事業所など63機関、約650名が参加し、「航空機が空港の滑走路で爆発炎上、多数の負傷者が発生した。」という想定で実施しました。訓練に参加した職員は、実際の航空機を使って消火訓練や負傷者の救助、搬送訓練などを実施し、航空機災害に備えるべく、実災害同様真剣に取り組みました。



【大阪国際空港航空機事故対策総合訓練の様子】

◆ 集団救急事故対策訓練を実施

旭市消防本部（千葉）

旭市消防本部では、平成26年10月29日（水）、旭文化の杜公園において、関係機関を含め約90名が参加し、踏切内で乗用車と列車が衝突したことにより多数の負傷者が発生したという想定で集団救急事故対策訓練を実施しました。

この訓練は、大規模な災害・事故の際に、関係機関と協力し、消防本部各部隊がよりの的確、有効に活動、傷病者の救出、救護、搬送を行い、被害を最小限にとどめることを目的に実施しています。

訓練では、千葉県旭警察署、旭中央病院DMATチームが参加し、先着隊の初動体制の確立、現場指揮本部及び応急救護所の設置、傷病者のトリアージを主眼に置き実災害に即した有意義な訓練を実施することができました。

今後も、実践的な訓練を重ね、消防本部、病院及び関係機関との密接な連携により、円滑な救急救助活動が実施できるよう職員一丸となって取



【集団救急事故対策訓練を実施】

り組んでいきます。

研 修 等

◆ 平成26年度東濃西部消防団安全運転講習会を開催

多治見市消防本部（岐阜）

多治見市消防本部では、平成26年10月19日（日）、市内の大原自動車学校において、平成26年度東濃西部消防団安全運転講習会を開催しました。

講習会を始めたころは、当市の消防団員を対象に講習を実施していましたが、平成23年から近隣の消防団員が参加し、今年度は多治見市消防団、土岐市消防団、瑞浪市消防団が参加しました。

大原自動車学校で多治見警察署交通課長の講義や消防車両の緊急走行訓練を行い、警察官からの評価と指導を受けました。

講習内容等は、以下のとおりです。

【講義】

- 1 緊急自動車の法的根拠について
- 2 緊急自動車の緊急走行について

【緊急走行訓練】

- 1 安全管理
- 2 交通事故防止
- 3 車載マイクでの緊急回避放送等



【警察官からの評価の様子】

そ の 他

◆ 子ども救急カード（ECカード）を導入

桐生市消防本部（群馬）

桐生市消防本部では、桐生市及び桐生市教育委員会と連携し、子どものケガや病気、不慮の事故等様々な場面で対応できる緊急時の統一情報カード「子ども救急カード（ECカード）」を平成26年6月から導入し、桐生市内の保育園、幼稚園、小中学校等の児童・生徒を対象に運用開始し、10月に整備が完了しました。

このカードは学校等用と家庭用に備える2種類があり、保育園、幼稚園、小中学校等、また家庭で子どもが救急搬送される場合、救急隊が必要とする病歴やアレルギーなどの情報を記載するもので、学校等及び家族関係者といち早く情報を共有することで、緊急時の対応の統一と救急活動時間の短縮を目的としています。

【子ども救急カード（ECカード）を導入】

◆ 防火ポスター作品を高校生から募集

埼玉西部消防局（埼玉）

埼玉西部消防局では、秋季全国火災予防運動事業の一環として、管内の高等学校の生徒から防火標語をイメージしたポスター作品を募集したところ、15校から123点の応募があり、選考の結果、埼玉県立芸術総合高等学校（所沢市）1年の須田裕貴那さんの作品を最優秀賞に決定しました。

当消防局では、須田さんの作品をもとに3,600枚のポスターを作製し、管内の主要な事業所や公共施設に配布しました。また、同作品以外に優秀賞5点、入賞10点を決定し、当消防局のホームページに掲載しているほか、消防出初式をはじめとした各種イベントでの展示を計画しています。

高校生を対象とした作品募集は今回が初めてでしたが、いずれの作品も質が高く、選考に苦慮するなどうれしい悲鳴も聞かれました。これらのポスターが多くの方々の目に留まり、防火意識の向上に繋がることを期待します。



【(中央) 最優秀受賞者 須田さん】

消防学校からの便り

◆ 救助科CSRM訓練を実施

千葉県消防学校（千葉）

千葉県消防学校では、平成26年10月21日（火）・22日（水）に救助科第43期教育訓練の一環として、CSRM訓練（Confined Space Rescue and Medicine の略で、日本語では「狭隘空間における救助・救急・医療活動」といわれる。）を実施しました。

この訓練は、震災時等に発生する狭隘空間における救助・救急活動の技術習得、医療従事者との連携強化を目的に開催しており、4年目を迎える今年は、本校にCSRM訓練施設を新たに設置、1日目に講義及びスキルステーション（CPR自己学習システム）、2日目に想定訓練を実施し、知識・技術の向上を図りました。



【新たに設置したCSRM訓練施設と訓練の様子】

情報提供

◆ 第27次消防審議会（第4回）の開催（11月14日、消防庁）

- 1 日 時
平成26年11月27日（木） 10時00分から12時00分まで
- 2 場 所
主婦会館プラザエフ7階 カトレア
- 3 議 事（予定）
 - (1) 社会経済情勢の変化を踏まえた地域防災力の充実強化の在り方について
 - (2) その他
- 4 出席者 消防審議会委員、消防審議会専門委員
消防庁長官他
- 5 傍聴に当たっての留意事項
 - (1) 傍聴は、指定された場所で行います。
 - (2) 携帯電話、PHS等については、電源を切るかマナーモード等にして下さい。
 - (3) 静粛に傍聴し、喧噪にわたる行為は行わないようにお願いします。
 - (4) 撮影を希望される方は、以下の連絡先に事前に連絡をお願いします。
 - (5) 撮影については、冒頭のみとさせていただきます。
 - (6) その他、消防庁職員の指示に従うようお願いします。

【問い合わせ先】総務課

担当：濱里補佐、安藤事務官、山田事務官

○ 全文は、消防庁ホームページ（<http://www.fdma.go.jp/info/2014/20141114-1.pdf>）に掲載されています。

※ 消防庁各課室の直通電話番号は（<http://www.fdma.go.jp/neuter/about/tel.html>）に掲載されています。

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。

週間情報への投稿は企画課へ！

TEL 03-3234-1321 FAX 03-3234-1847 E-mail : weekly@fcj.gr.jp